

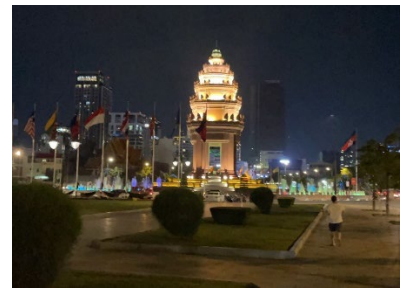
January / February
2022 No.15

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER



事業開始後 2 年が経過

～進めることができている活動と進捗の遅れについて～

本事業は、日本産科婦人科学会がカンボジア産婦人科学会を技術支援し、子宮頸がんサービスの質の改善を目指しています。事業の概要と実施体制は 図1に示します。

合計 3 年間の事業期間(2019 年 11 月から 2022 年 11 月)のうち約 2 年が過ぎました。2019 年 11 月、12 月には日本人専門家が現地カンボジアを短期渡航できたのですが、その後は、新型コロナウイルス感染症による各種影響のために、日本からオンライン会議や電子メール等を活用して遠隔で事業実施と技術支援を継続しています。その活動の詳細について、過去のニュースレターで報告して参りました。

「予定されている成果と活動」のうち進めることができている活動は、健康教育教材の作成、カンボジア人産婦人科医を対象とした検診技術支援・検診マニュアル見直し、トレーナー能力強化などです(表1参照)。他方、進捗が遅れている活動として、当初 2020 年に実施を予定していた、「小学校教員対象の健康教育」が挙げられます。小学校の臨時閉校・再開に係る教員の多忙などにより、いまだ実施に至っていません。健康教育を実施してからでないと、子宮頸がん検診の実施に進むことができないため、健康教育の実施に向けての詳細計画を現在、検討し始めているところです。一時期、オンライン実施の可能性についても検討をしましたが、2021 年 12 月 カンボジア首都プノンペンでは、感染予防対策が緩和され、学校が再開し、対面での実施が現実的なオプションとなっていました。その後、2022 年 2 月末から、感染者が微増傾向にあり、対面とオンラインの2通りのやり方を想定し計画策定を進めています。今後、小学校関係者との具体的な協議に進むことが期待されています。

2022 年度(令和 4 年度)は、進捗の遅れを挽回すべく、予定されている活動をさらに進めていく予定です。

(国立国際医療研究センター 小原ひろみ)

図1. 事業の概要

JICA草の根技術協力事業「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的な子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト（2019-2022）」

上位目標 包括的な子宮頸がんサービスがカンボジア国内に展開される

プロジェクト目標 女性のヘルスプロモーションを通じた包括的な子宮頸がんサービスの質が改善される

■ 受益者(事業ターゲット):

- ・ プノンペン経済特区工場従業員、工場管理者(約2000名)
- ・ プノンペン市内小学校教員、教育省関係者(約2000名)
- ・ カンボジア保健省職員(約100名)
- ・ プノンペン市内国立5病院婦人科医(29名)
- ・ SCGO学会員(約200名)

■ 事業実施体制

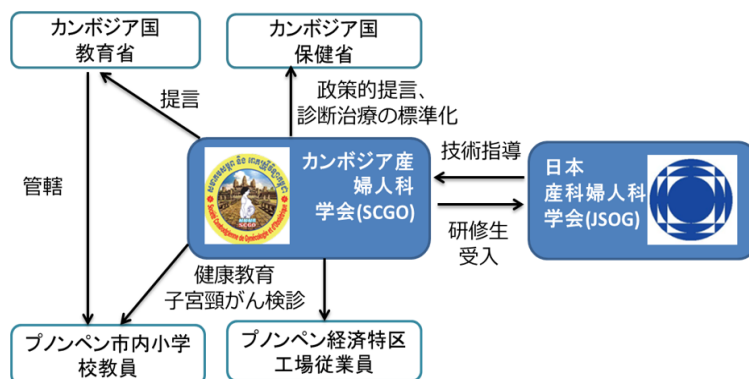


表1. 「事業で予定されている成果と活動」とその進捗状況
実施済・実施中の活動(青字)と今後予定している活動(赤字)

成果	1. 女性の健康と子宮頸がんに関する理解を深めることのできる効果的な健康教育の提供	2. 子宮頸がん検診への対応能力の拡大	3. 健康教育と検診のスケールアップに向けた環境整備
活動	1-1 プノンペン市教育省や保健省関係者、プノンペン経済特区及びその他の工場管理者との協議を行い、健康教育啓発活動・検診計画を立てる(行う予定)	2-1 自己採取によるHPVテストを検診に導入する(準備完了)	3-1 多くの人がアクセスできる子宮頸がん啓発のための携帯アプリ・ビデオ等を開発・導入する(今後)
	1-2 ターゲットグループの女性の健康に関する教育啓発活動のニーズを確認する(完了)	2-2 巡回検診および病院での子宮頸がん検診を実施する(未)	3-2 上記3-1の方策により、一般女性へのヘルスプロモーション活動を通じて検診の普及を行う(今後)
	1-3 女性の健康と子宮頸がんに関する健康教育プログラムのコンテンツを改良する(SCGO主導で改良中)	2-3 検診結果を分析するための簡易ながん登録システムを導入する(実施中)	3-3 学会ホームページや他の機会・手段等を通じて子宮頸がん検診普及活動を実施する(ホームページ改良しモニター中)
	1-4 学校や工場の管理者への啓発活動を実施する(小学校が開いたため今後協議を予定)	2-4 検診マニュアルの見直しと改定を行う(最新WHO推奨を確認の上、HPVテストを用いる検診フローチャートを改変)	3-4 女性の健康セミナーなどで、学会員・保健省や関係者に検診結果や教訓を共有することで検診活動を普及する(2021年11月に実施済、22年も実施予定)
	1-5 健康教育チームを増やす(12月に指導者研修を行い指導者11名に増加)	2-5 SCGOとJSOGは、トレーナーの能力強化を行う(継続実施中、今後も日本人講師によるウェブ講義実施予定)	3-5 保健省や教育省の関連部局に事業の成果と知見を共有する(継続実施中)
	1-6 学校や工場で健康教育を実施する(具体の実施計画を今後策定予定)	2-6 子宮頸がん検診とその結果分析のための技術指導を行う(実施中)	

青字:実施済みの活動、実施中の活動
赤字:今後予定している活動

コロナ禍に負けず、 支援を止めないよう工夫が行われている事例として 本事業が JICA ウェブサイトで紹介されました

JICA 草の根技術協力事業は、当事業のみならず、世界各地で日本人の現地渡航ができず、現地においても感染予防のための対策が取られているなど、事業実施に大きな影響が出ているようです。そういう状況にはありながらも、支援を止めないよう工夫が行われている事例として、本事業が JICA ウェブサイトで 2021 年 12 月に紹介されました。

事業に関わる関係者が保健医療従事者のため、新型コロナウイルス感染症の対応で多忙となってしまった、日本人専門家の渡航ができずに十分な指導が行えない、学校の休校により健康教育の実施にすむことができずにいる、そんな中でも、対面調査から電話調査にベースライン調査を切り替え調査を実施し、また、インターネット環境を整え、オンライン会議により日本人専門家からの技術支援・講義提供ができていることなど、事業実施の工夫が簡潔にまとめられています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。

(国立国際医療研究センター 小原 ひろみ)

JICA ウェブサイト (日本語)

コロナ禍における草の根技術協力事業の挑戦【vol.2】

難しい状況だからこそ力を合わせて

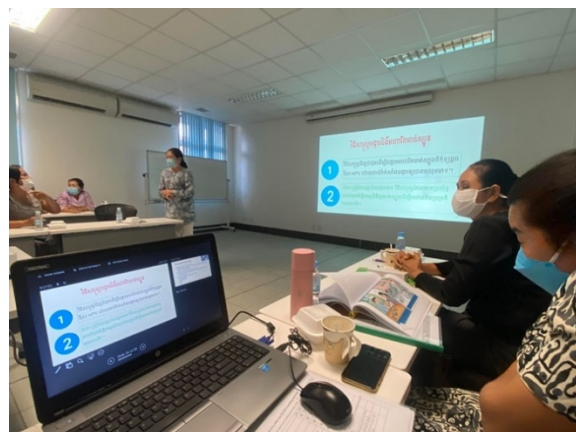
<https://www.jica.go.jp/tokyo/topics/2021/ku57pq00000mv30j.html>

Facebook (日本語)

<https://www.facebook.com/jicatokyo/posts/4873625845990533>



指導者養成研修の様子



指導者養成研修の様子
健康教育の2つのキーメッセージが明確になった



KAP サーベイの結果を確認している SCGO 医師ら



SCGO 健康教育チーム定例会議の様子